

## ミシュランの三ツ星クリニック

私が経営する銀座アイグラーッドクリニックの理想の将来像は、ミシュランの三ツ星クリニックです、と話しています。ミシュランガイドに医療機関の格付けはありませんが、主旨は伝わるでしょう。三ツ星レストランには定義があり、「そのレストランでの食事のために、旅行を計画する価値がある」という目的地性があるのです。ならば、そのクリニック版にしよう。当院に来院して、私の診察や施術を受けるために、銀座に旅行する価値を作りだそうと。

さっそく、ミシュラン三ツ星シェフがどのような取り組みをしているかを調べます。料理の方程式とは、素材×調理手段×シェフの腕と頭脳です。それぞれ、薬液×伝達手段×医師の腕と頭脳に対応します。世界中の薬液を探し求め検証しようという姿勢は、ミシュランシェフが理想のデミグラスソース作りを求めて濃厚なワインを開発、なんならワイン畑から取り組む努力にありました。伝達手段については、ピザ職人が理想のピザ作りのために窯に拘るのと同じです。それでも、最後はシェフの腕と頭脳が勝負どころです。同様に、医師として、論文を読み、学術活動を行い、基礎研究者とも交流をする。その上で、自分自身のひらめきを信じてみたいのです。

私が美容皮膚科クリニックを経営しはじめた当初、何の強みもありませんでした。そもそも美容医療のトレーニング期間が乏しいのですから。何か一つでナンバー1を取らないと、経営の観点からも話にならないわけです。最初のブレイクスルーは、メソガンU225と呼ばれる薬液を皮下組織に伝達するための医療機器の「扱い方」でした。

メソガンU225とはメトラス株式会社が開国内流通を扱う未承認医療器具ですが、営業担当の方に提案します。「このメソガンは、皮膚科専門の方、形成外科専門の方がお使いでしょう。でも、腹部外科と胸部外科の両方を経験し、外科学総論の視点を持った医師ならどう使いこなすか。他の医師の方々は、絶対に興味があるはずですよ。パネルディスカッションをさせてください」と。営業担当の方も面食らったことでしょう。まさか美容医療業界で無名の医師から逆提案があるとは。私の熱量に根負けし、経営企画部長に連絡を取っていただきました。ありがたいことに、まずは、メトラス社が主催するセミナー「Mediar」で「外科医の思考回路に基づくメソガンU225活用方法」を披露しました。結果は、大成功。このセミナー動画の切り抜きが、形成外科学会が主催する全国規模の学術大会でも使用されました。形成外科学会に未入会の私の施術動画が映し出されたことに、戸惑いの気持ちと嬉しい気持ちが混在していたことをよく覚えています。

後日、日本人初のメソガンU225認定指導医の資格も頂戴しました。尚、当時の経営企画部長の方は現在、社長に昇進していらっしゃいます。ミシュランの三ツ星クリニックを指す上で、私の最初の成功体験であり、感慨深い思い出の一つです。

さて、このメソガンU225には、さらなる後日談があります。忘れもしない、美容外科学会が主催する学術集会の下部組織、メソセラピー研究会でのこと。発表スライドの事前提出のために会場を訪れた際に、ある年配の方が私に挨拶に来られました。関係者の方から「研究会の理事長」と伺っており、いちいち若輩者の私なんかには挨拶とは丁寧な方だなと感じていました。一般的な挨拶をそっこのけに、「○○がお世話になりました」と仰るではないですか。理事長職として多くの関係者に挨拶する中で、どなたか別の方と混同されていると思い聞き流していたところ、「●●○○です。乾先生に家庭教師の指導でお世話になりました」と。なんとという偶然。実は、私の最初の家庭教師先、教え子のお父様でした。ご家庭訪問中は、一度もお父様にお会いしたことがなく、初対面がその学術会場でした。つくづく、このメソガンU225は、私の人生の物語性を強くするものだと感じる次第です。

尚、その最初の教え子は無事に、現役で東大理科III類に合格し、進学振り分けで東大医学部に

進学します。最初の1年間は東大医学部アメフト部SCORPIONSにも所属し、大学のみならず部活においても、私の直属の後輩となりました。本当に良い思い出です。